

No.創出-1-5	雨水浸透・保水に配慮した舗装整備
-----------	------------------

技術の目的

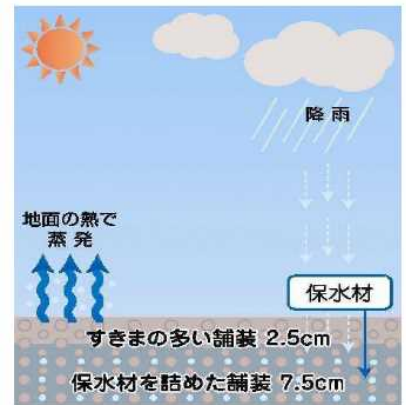
道路や緑地などにおいて、保水性・透水性の高い舗装や、雨水を貯留する路盤を使用することで暑熱緩和を図り、快適な歩行空間を形成する。

導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

技術の内容・事例

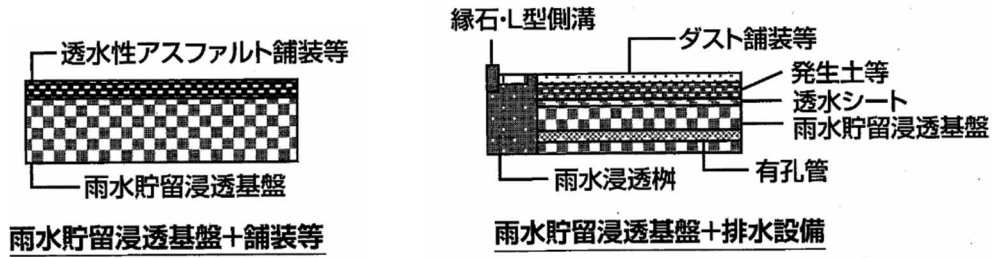
■技術の内容

- ・保水材にしみ込んだ雨水等が蒸発する時の気化熱を利用して路面の温度上昇を抑制（最大で10℃程度）する。 出典1
- ・透水性を兼ね備えた舗装を使用することで流出雨水が減少し、都市型洪水の予防、健全な水循環の維持に貢献することが期待される。 出典2



■導入事例 出典3・4

- ・横浜グランモール公園（横浜市）では、保水性舗装と雨水貯留機能のある砕石路盤の併用により、基盤内に流入した雨水のしみ上がりによる気化熱や植物からの蒸散作用を活用し、雨水対策と同時に涼しい歩行空間を形成している。 出典3・4



横浜グランモール公園（横浜市）の事例 出典3・4

■出典・参考資料

- ・ 1 東京都建設局「道路の暑さ対策について（舗装の取組み）」
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/road/kanri/hosou/dourokanri0034.html>
- ・ 2 環境省「まちなかの暑さ対策ガイドライン」（平成 30（2018）年）
https://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guidelineH30.html
- ・ 3 横浜市環境創造局みどりアップ推進部みどりアップ推進課「横浜市における下水道事業と連携した公園整備について」公園緑地 Vol.81(1)（令和 3（2021）年）
- ・ 4 横浜市環境創造局「気候変動に適応したグリーンインフラの活用」（国土交通省 HP 掲載資料）
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000018.html

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
	◎		○		○

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●		●	●			●	●					●	●	●	●	●